

## 人間の言語機能から見た音楽

東条 敏

北陸先端科学技術大学院大学

### 講演要旨

『コンピュータには何ができないか』は米国の哲学者ヒューバート・ドレイファスが 1970 年代から 90 年代にかけて三度に渡って版を重ねた人工知能批判の書である。同書は機械による人間性の模倣を否定し、道徳性・愛・創造性は機械の限界を超えているとした。しかしドレイファスの後 30 年を経て、状況は大きく変わった。すべての仮定とデータを手入力することが前提とされたコンピュータ・プログラムが、今やブラックボックス化され、ニューラル・ネットワークがコンピュータにとっての新たな感覚器官となっている。本講演では、音楽がいかに言語・数学と密接な関係にあるかを説いたのち、コンピュータによる創作の可能性について考察する。（寄稿原稿から抜粋）

### 講演者紹介

1957 年生まれ。東京大学工学部計数工学科卒業，1983 年東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。博士(工学)。1983---1995 年三菱総合研究所，1995 年北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授，2000 年同教授，改組により現在同大学院大学先端科学技術研究科教授。かねてより自然言語の文法理論や論理による意味表現を研究しているが，近年はエージェント間のコミュニケーションにおける情報伝達の論理，知識・信念の変更の論理表現を専門とする。また，進化言語学による言語獲得のしくみの解明，言語学的視点から見た音楽学などにも興味を持つ。情報処理学会，人工知能学会各会員。